

ドーピング防止活動推進事業

(前年度予算額: 201,016千円)
30年度概算要求額: 402,032千円

我が国はこれまでユネスコ「スポーツにおけるドーピングの防止に関する国際規約」を踏まえ、「国の役割」であるドーピングの防止に関する教育・研修・研究を行っており、国際的にも高い評価を受けてきた。

昨今のロシア陸上界の組織的なドーピング疑惑及びオリンピック選手等によるドーピングの発覚等を受け、**世界的規模で、アスリートやサポートスタッフのみならず、一般、特に若い世代への幅広い教育・研修活動及び巧妙化するドーピングの検出手法の開発が課題**となっている。我が国は、世界ドーピング防止機構(WADA)のアジア地域を代表する常任理事国として、RWC2019及び2020年東京大会等の開催国として、**2015年1月改訂の世界ドーピング防止規程及びWADA・IOC等からの国際的な要請に応じ、ドーピングのないクリーンな環境を整備することが求められている。**

我が国において、ドーピングゼロを実現することは、**2020年東京大会の成功の鍵**であり、更に、**クリーンな日本を世界へ発信し、ドーピングの撲滅を牽引していくことで、2020年を超えて、スポーツ立国としての地位を確固たるものとする。**

ドーピング防止教育事業

153,148千円(98,784千円)

アスリートへの研修会の実施等

アスリートを対象とした研修会の開催、アウトリーチ活動の実施

サポートスタッフへの教育強化

アスリートのサポートスタッフ(コーチ、トレーナー等)に対する教育の強化

日本からドーピングゼロを発信、国民全体が公平で公正なスポーツの価値を共有できる社会へ



2020に出場する可能性があるユースへの教育強化、スクールプロジェクトの実施

アスリートのみならず、保護者等への教育強化
初等中等教育から高等教育まで、学校教育課程におけるスポーツの価値教育を促進するため、教材・指導マニュアル開発、モデル校の設定や認定制度の展開

医療従事者に対する教育

医師、歯科医師、薬剤師等を対象とした教材・学習アプリの開発を含む啓発活動の展開



ドーピング防止研修事業

196,733千円(65,781千円)

ドーピング検査員(DCO)の新規資格取得者の増加

DCO養成講習会の拡充
検体採取や守秘義務への対応に適したバックグラウンドをもつ者をターゲットとした募集活動の展開

量の強化: DCOの増加

DCOの資質向上

抜き打ち検査の模擬研修や実際の競技会における検査などの研修機会の拡充、DCOに対する評価システムの運用

質の強化: DCSCM(国際大会におけるドーピング検査室責任者)になれる者等の増加



国際的なDCOの養成

DCOの海外競技大会派遣、海外からのDCOを受け入れた国内競技大会における研修機会の拡充
国際大会への対応に必要な語学研修の実施等

ドーピング検査技術研究開発事業

52,151千円(36,451千円)

ドーピング検査体制のイノベーション(クリーンなアスリートを守る、精神的・身体的負担のない検査体制の構築)

最先端質量分析技術・機器を利用した検査手法開発

(例: 乾燥血液スポット分析の導入)

→アスリートの精神的・身体的ストレス軽減、検査コスト削減

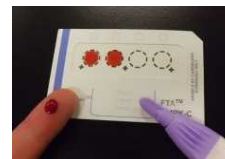
進化するドーピングに対応できる検出手法の開発

→外因性物質を直接特定する効率的で高質な分析の実現

→新出手法(例: Micro Doping)等への対応



研究
開発



2020
東京大会
試行



新しい国際的なドーピング防止体制の構築に向けた議論

WADA、IOC等国际機関の議論への参画強化